

「佐渡の伝統風景」～たらい舟～ 新潟県佐渡市

佐渡島の南端、沢崎・白木付近はたらい舟発祥の地で、現在でも「磯ねぎ漁」が行われている。磯ねぎ漁はたらいの上からガラスの箱で磯まわりを覗き、ヤスなどの道具で刺したり、突いたりして海藻や魚介などを採取する漁法である。

磯ねぎ漁は、4月から6月頃の3ヶ月間が最盛期で、この時期は一家総出でわかめ刈りなどに出る。最近では、



たらい舟

は、小木港近くで佐渡のたらい舟として、観光面でも大きな役割を果たしている。

昔、味噌樽を半分に切ったようにみえるこの舟は「はんぎり」と呼ばれ、旧羽茂町の味噌樽職人が造っていたようだ。材料は杉木と竹のみで、金属は一切用いない。また梁(はり)のようなものも使用せず極めて単純な構造である。

船形は左右対称の楕円形で、前後の区別はない。単純な構造であるが水によく浮き復元力もあり、細かい操作が櫂一本で自由にできるという舟の基本的な機能を備えている。また磯舟に比べ安価で、持ち運びが簡単である。大切に使用すれば10～15年は使用できる。

昭和30年代頃までは、外三崎一帯では嫁入り道具の大切な一品であった。

～おけさ伝説～

また、佐渡おけさは全国的に有名な民謡だが、その語源をめぐる伝説は多い。小木港に商売に失敗した商家があり、飼っていた猫が「おけさ」という名の娘となってあらわれた。娘が働くそば屋は繁盛し、その娘が美しい声でうたう唄やおどりを「おけさ」とよぶようになった、というものがある。また、猫が遊女に化けておけさと名乗り、その遊女がうたう唄が「おけさ節」となった、桶屋の佐助のふいご唄からはじまったので「桶佐節」となったというものもある。

いずれにしても、長崎県平戸の田助港で生まれた「ハイヤ節」が、北前船の船乗り衆によって佐渡に渡り、小木の土地に根つきおけさ節に変化していったものと思われる。

みどころ



- 矢島体験交流館 ～たらい舟の里 矢島・経島～: 入り江の周囲は、遊歩道が整備されており散策してもおもしろく、周辺には名所・旧跡が多い。湾内は、波も穏やかで赤い太鼓橋を背景にたらい舟操船体験や海水浴に最適である。一般たらい舟乗船料 大人 500円・子供 300円
☎0259-86-2992